

DOWAS NEWS

2021

Vol.24 No.1



会長就任あいさつと次回以降の全国大会のお知らせ
海洋深層水利用学会会長 大塚耕司 … 1

第 25 回 海洋深層水利用学会全国大会「海洋深層水 2021 大会」大会のお知らせ
海洋深層水利用学会全国大会 研究発表企画委員長
清水 勝公 … 2

海洋深層水利用学会 2021 年度第 1 回理事会 報告
海洋深層水利用学会事務局 代表 有馬博史 … 5



海洋深層水利用学会

会長就任あいさつと次回以降の全国大会のお知らせ

海洋深層水利用学会会長 大塚耕司

会長就任より時間が経ってしまいましたが、今後の全国大会のお知らせを兼ねて、一言ご挨拶申し上げます。2020年度の総会を持ちまして、第3代の海洋深層水利用学会会長に就任いたしました。初代会長酒匂敏次先生、第2代会長高橋正征先生と同じようにはとても務まりませんが、私なりの個性を発揮して、海洋深層水利用の発展に尽くしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、米政権交代を機に気候変動対策の動きが全世界で一気に加速しました。2050年にカーボンニュートラルを実現するためには、産業を支えるレベルに再生可能エネルギーを成長させる必要があります。他方、COVID-19のパンデミック以降、人々の健康志向が向上しました。肥満や運動不足、持病を抱える人の死亡率が高いことから、日常の健康維持への関心が一気に高まっています。海洋温度差発電は大規模で安定した発電が可能な再生可能エネルギーです。また海洋深層水は、健康にかかわるさまざまな施設や製品を生み出すことができる再生可能資源です。現在の気候変動対策の動きや健康志向の向上は、いずれも海洋深層水資源の価値を高めるものです。この機に、海洋深層水の資源価値を改めて広く内外に発信し、持続可能な社会の構築に少しでも貢献できればと思っています。

本学会にとって、そのような発信を行うための最大の機会が全国大会であることは言うまでもありません。これまで、台湾や韓国を含めてさまざまな海洋深層水取水地を中心に全国大会を開催してきましたが、昨年は、本来であれば新潟県佐渡市で行う予定でしたが、コロナ禍で史上初のオンライン開催となってしまいました。さらに本年も、苦渋の決断ではありましたが、現状では対面開催は不可能と判断し、2年連続のオンライン開催にすることといたしました。来年こそは佐渡で開催したいと強く思っております。その後は、全国大会開催希望が寄せられていました、高知県室戸市を2023年度の、富山県入善町を2024年度のそれぞれ開催都市として、準備を進めていくことになりましたことをご報告いたします。一刻も早くコロナ禍が解消し、また皆様と顔を突き合わせて議論ができることを心より願っております。

第25回海洋深層水利用学会全国大会「海洋深層水2021大会」大会のお知らせ

海洋深層水利用学会全国大会 研究発表企画委員長
清水 勝公

第25回海洋深層水利用学会全国大会は新型コロナウイルス感染拡大を防止する目的から、昨年度と同様にWeb会議システムを利用しての開催とします。従いまして、視聴に当たりましては各会員が保有するパソコンよりご参加下さい。なお、事前にアクセスコードとパスワードをお知らせしますので、従来通り、DOWASのホームページ「<http://www.dowas.net/>」参加申込みフォームよりお願いします。

1. 開催日：2021年10月27日（水）
午前の部 10：00～12：00
午後の部 13：30～15：00
15：30～17：00

※口頭発表は「発表：12分／題＋質疑：3分」としますので、予めご承知おき下さい。

※プログラム内容や開催時間等に変更が想定されます。詳細については、随時DOWASホームページに掲載してお知らせしますので、ご確認ください。

2. 参加費：無料

3. 参加及び研究発表申込み方法：

大会への参加者及び研究発表者は当学会ホームページの参加申込みフォームからお申込みください。なお、参加申込みフォームからの申込み上の注意事項につきましては以下の通りです。

参加申込み：参加を希望される方は、研究発表の有無に関わらず、[参加申込（参加申込みフォーム）]の「【1】2021大会 参加申込」欄に所定の事項を記入の上、お申込み下さい（従来通り）。

研究発表申込み：一般研究発表を希望される方は、[参加申込（参加申込みフォーム）]の「【2】講演（研究発表）参加申込」欄に、所定の事項を記入の上、お申込み下さい（従来通り）。

締切り期日：大会参加申込み締切り	2021年10月20日
研究発表申込み締切り	2021年8月31日
研究発表要旨集原稿提出締切り	2021年9月15日【必着】
研究発表動画提出締切り	2021年10月20日【必着】

研究発表方法：Web会議システムによる発表

※冒頭にもご案内しました通り、本年度全国大会は新型コロナウイルス感染拡大を防止するため、Web会議システムを利用しての開催とします。

特別講演：今年度は初めての試みとしまして“講演＋パネルディスカッション”形式での発表を1企画のみ受け付けます。持ち時間は30分程度を上限とします。

司会者・進行係等が必要な場合は、講演者（企画実施者）側にてご準備ください。

その他 : 1 題目の講演時間は 15 分（発表：12 分＋質疑：3 分）で行う予定です。

※発表題数によって、質疑時間に変更が生じます。大会間近のホームページでご確認ください。

研究発表者は指定日までに、発表内容を動画に編集して、実行委員会事務局・清水までメール送付してください。

また、質疑は昨年度と異なり、オンラインでの対話による Q&A を予定しています。

発表題数は 20 題程度に限定する予定です。先着順の受付とさせていただきますので、早めに申込み下さい。

また、発表者は会員の方に限定させていただきますので、ご注意ください。

詳細は下記にお問い合わせ下さい。

実行委員会事務局：清水建設（株）エンジニアリング事業本部

新エネルギーエンジニアリング事業部 清水 勝公

〒104-8370 東京都中央区京橋二丁目 16-1

電話番号 03-3561-4327、FAX 番号 03-3561-8675

メールアドレス katsunori.shimizu@shimz.co.jp

4. 研究発表要旨集原稿の作成と提出要領（従来通り）

- ・要旨集原稿は、「日本語か英語」のいずれかで執筆の上、A4 判 1 頁とします。
- ・提出いただいた原稿はそのまま製版に用いますので、出来るだけ読みやすく仕上げたものを電子データ（PDF 原稿厳禁）で送付して下さい。誤字・脱字の修正程度の簡単な査読を行います（サンプル参照）。
- ・用紙は A 4 判を縦に使い、上下端及び左右端に「25mm」の空白を残して下さい。
- ・記載順序は演題、演者名、本文の順で、詳細は次の通りです。
 - 第一行：演題→フォントを MS ゴシック*12 ポイントで記載、中央に配置。
 - 第二行：演者名→フォントを MS 明朝*10 ポイントで記載、中央に配置。演者は名前の左肩に“○”印を付ける。所属は氏名の後の（ ）内に社名程度を記入。共著の場合、“・”印で連ねる。2 行になっても良い。
 - 第三行：ブランク行とする。
 - 第四行以降：要旨本文とする。
- ・本文は目的、方法、結果等について記載（図表含む）して下さい（投稿例参照）。
- ・投稿原稿（PDF での投稿厳禁）は 2021 年 9 月 15 日必着で、実行委員会事務局（清水）までメールでお送り下さい（メール容量が 2.5MB を超える場合は別途大容量用の添付ファイルを送信しますのでメールで申し出て下さい）。
- ・過去に、投稿内容が知的財産権に抵触するケースが発生しています。発表側で調整の上、投稿・発表をお願いします。大会実行委員会事務局および学会事務局では一切の責任を取れませんのでご配慮下さい。
また、特に本年度大会は Web 会議システムを利用した研究発表となり、研究発表データの録画が容易となり使用される事が想定されます。特許申請中の案件や著作権に抵触するデータ等の取扱いに関し

ましては発表者側でご配慮頂けますようお願いいたします。

- ・ポスターセッション発表は本年度、ございません。次年度発表をご検討ください。

5. 研究発表動画編集要領

- ・発表時間は「12分/題」とします。
- ・発表の言語は日本語あるいは英語でお願いします。
- ・編集要領としましては以下の通り、ご参考ください。
 - ・はじめの10秒間：発表者又は共同研究者紹介
 - ・その後12分：研究発表データ

6. 発表動画 VTR の提出について

- ・発表内容は聴衆者各自が保有するパソコン等画面となりますので、見易いようご配慮の上、作成して下さい。
- ・実行委員会事務局への提出期限は2021年10月20日必着で受付けます。また、容量が5MBを超える場合は別途大容量用の添付ファイル (Smooth File) を送信しますのでメールで大会事務局まで申し出てください。

7. 全国利用者懇談会

今年度はWeb開催となる関係から、その実施の可否も含めまして、現在検討中です。
後日、ホームページに掲載しますので、各自、ご確認ください。

<大会事務局>

第25回海洋深層水利用学会全国大会実行委員会事務局
清水建設(株)エンジニアリング事業本部新エネルギーエンジニアリング事業部
事務局 清水 勝公 宛 (携帯電話 090-4924-3922)
E-mail : katsunori.shimizu@shimz.co.jp

海洋深層水利用学会2021年度第1回理事会 報告

海洋深層水利用学会事務局 代表 有馬博史

2021年5月24日(木) 13:00 - 14:30にWeb 会議システムによるオンライン会議 (Webex meetings)にて行った。
議事 <2020年度活動内容報告および2021年度活動予定についての審議>

1. 学会賞授賞審査委員会 (池上理事)

a. 議案書資料1に基づき、2021年度の事業計画について報告があった。

- 今年度の総会では 2019年度学会賞受賞の大塚耕司先生と 2020年度受賞の高橋正征先生が講演を行うことになった。
- 今年度の学会賞について4月1日付で公募が開始されている。

2. 研究発表企画委員会 (清水理事)

a. 議案書資料2に基づき、2021年度の全国大会について説明があった。

- 2021年度の全国大会はWebで開催することが報告された。
- 2021年以降の全国大会開催について、これまで開催要望のあった、佐渡市、室戸市、入善町の状況について説明があった。
- 2022年度が(コロナの影響がなければ)佐渡市開催、また、2022年度が予定どおり現地で開催できれば、2023年度室戸市、2024年度入善町の順に開催する。
- 入善町の新規取水管の増設状況について説明があった。2023年に完成予定である。
- 2022年度がコロナの影響で延期となった場合は、さらに1年ずつ開催を順延する。
- さらに、もう1年延期となった場合は、これらの開催地について再検討を行うことが報告された。
- 来年の理事改選後は、次の担当に引き継ぐこととする。
- 2021年度は10月開催予定であるが、今後日程調整を行う。
- 全国大会開催予算は50万円とする。学会側からの本予算の寄付によりWeb開催は無料とする。
- [尾高理事より] 今後4年間の全国大会開催予定についてWeb掲載について確認があった。
- [清水理事より] 当面2年間(2021および2022年)分の掲載とすることでホームページ委員会からの提案があったため、その状態のまま掲載する。
- [尾高理事より] 2年間の掲載について了解した。
- [大塚理事より] ニュースレターへの大会情報記載について確認があった。
- [清水理事より] ホームページに記載までの内容を記載するように要望があった。
- [河野理事より] 室戸市への(2023年開催についての)連絡の有無について確認があった。
- [清水理事より] 学会から会長名で連絡済みである。
- [尾高理事より] Webには2年間開催予定の掲載のみであるが、理事会議事録は別途掲載されており、今回理事会で議案に上がった4年間分の予定も掲載される予定であることを了承してほしい旨連絡があった。
- [大塚理事より] ホームページと理事会議事録の閲覧は対象者が異なるので問題はないと考えられる。

- - [大内理事より] 次回発行の海洋深層水研究にも理事会議事録を記載する予定である。
3. 論文誌編集委員会（大内理事）
- a. 議案書資料3に基づき、論文誌編集委員会の昨年度および今年度の活動について説明があった。
- 2020年度の第21巻1号、2号は発行済みである。
 - 3号は2021年4月末発行予定であったが、原稿査読等の関係から同5月末には予定であることが報告された。
 - 2021年度は、例年同様1,2,3号を発行予定。
 - 全体的に投稿が少なくなっている。原著論文等を積極的に出していただけるように要請があった。
4. ホームページ編集委員会（尾高理事）
- a. 議案書資料4に基づき、ホームページ編集委員会の昨年度および今年度の活動について説明があった。
- 2020年度の活動内容について報告があった。
 - 2021年度は昨年度と同じ内容の活動を行う。
 - [大内理事より]DOWASの英語版のWebサイトの現状について問い合わせがあった。
 - [尾高理事より] 英語版について、論文、ニュースレター等を公開していることが説明された。
5. ニュースレター編集委員会（今田理事）
- a. 口頭にてニュースレター編集委員会の今年度の活動について説明があった。
- 2021年度6月分として、大塚会長の就任あいさつを掲載予定である。
 - 10月学会開催のアナウンスの案内について提案があった。
6. 利用促進委員会（山田理事）
- a. 議案書資料5に基づき、MPについて総説論文の執筆状況について説明があった。
- 現在MPについて総説論文をとりまとめているが、高橋理事と意見交換を行うことでブラッシュアップを進めている最中である。
- b. 議案書資料5に基づき、2021年度の事業計画について報告があった。
- 2021年度もWeb開催となったため、「海洋深層水利用の多様な利活用」についてポスター発表を行う。
 - 「海洋深層水利用の多様な利活用」の総説論文を執筆予定である。執筆にあたり、内容が多岐に渡るので理事や理事に近い専門家の方々への協力を依頼したい旨の要請があった。
 - [大内理事より] 総説論文は学会誌へ通常通りの査読付きで投稿するかどうかについて質問があった。
 - [山田理事より] 査読付きで出したいと回答があった。また利用促進委員会として投稿する。投稿のページ規定(10頁)を超えるため、ページチャージが発生した場合の予算の原資について大内理事へ相談が行われた。
 - [大塚理事より] 予算(ページチャージ)は利用促進委員会から支払う形とし、会計上、支払の記録を残す必要がある。
7. 日台韓交流委員会（高橋理事、安永理事）
- a. 議案書資料6に基づき、2021年度の事業計画について報告があった。

- 台湾と韓国の全国大会の状況についての報告があった。韓国の情報はまだ得られていないが、台湾については近々オンラインの開催が決定している。
 - 台湾の全国大会では、日本から大塚会長、韓国は韓国深層水学会の会長が招待されて講演予定である。
 - その他の台湾の情報として、国内外の海洋深層水研究者からの寄稿による印刷物の出版予定である。日本での取りまとめは高橋理事が依頼されている。
 - [大内理事から] キリバスの(OTECの)状況について質問があった。(池上理事と安永理事が回答を行った。)
 - [安永理事より] 韓国のKim教授の佐賀大学での講演の中で、2019年にプサンでの試運転があり、その後キリバスに移動予定であったが、コロナの影響で延期されていることが報告されているとの回答があった。キリバス移動後は陸上での実験が行われる予定である。
8. 総合戦略検討委員会審議議案 (池上理事、井上理事)
- 議案書資料7に基づき、2021年度の事業計画について報告があった。[池上理事報告]
- 科研費の申請時期が早まる予定である。
 - 省庁との面談はコロナの影響で機会が得られない。
 - 内閣府総合海洋政策推進事務局長が海ロマン21でオンライン講演を行う予定である。
 - 久米島、羅臼、入善の各取水設備の整備予算がついている。具体的な情報はこれから入手の予定である。
9. 産公学連携推進委員会 (深見理事)
- a. 議案書資料8に基づき、産公学連携推進委員会のメンバー交代について報告があった。
- 高知県理事が川北所長から河野所長へ、沖縄県理事が久保所長から鳩間所長へ交代した。
 - 河野理事、鳩間理事から自己紹介があった。
- b. 議案書資料8に基づき、2021年度の事業計画について説明があった。
- 共同研究について継続調査を行う。今年度は、産・学や公・公の共同研究についても対象を広げる。
 - 研究機関のシーズと民間のニーズについて調査を行う。
10. 事務局 (有馬)
- a. 議案書資料9に基づき、会員の動向の報告が行われた。
- 昨年度第3回理事会からの変更はなく、2021年5月時点の会員が、個人会員117名、団体会員41団体であることが報告された。
 - 議案書資料9-1に基づき、2021年度総会について説明が行われた。
 - 2021年度総会は2021年5月24日 15:00-15:50 にWebオンラインにて開催されることが報告された。
 - 総会で配布の総会議案書について説明があった。
 - 総会后に特別講演会が開催され、2019年度学会賞受賞の大塚耕司先生と2020年度受賞の高橋正征先生が講演を行うことが報告された。
 - 総会の議決にはWebexの投票システムを用いることが報告された。
- b. その他、新しい会費納入手段が提案された。
- PayPalを使った会費納入方法について提案した。
 - メリットとして、振込側(会員側)の手数料が不要である、クレジットカード、銀行口座が使用でき、海外からも使用できる。
 - デメリットとして、受取側(学会事務局側)に手数料が発生する。

- 他の会費代行手段についても示されたが、手数料を考えるとデメリットが多いことが示された。
- [安永理事より] 会計監査に必要となるPayPal 内の残高の確認が可能かどうかについての質問があった。
- [事務局より] PayPalの説明によると、専用のアカウントページで残高等を確認できると回答した。
- [尾高理事より] PayPalが倒産した際の預金の取り扱いについて、銀行の場合、預金の保護システムがあるがPayPal もそれがあるかどうかについて確認があった。
- [事務局より] 本社がシンガポールにあり、日本と取り扱いが異なる可能性があるため、調査して後日報告を行う。

11. その他

大塚理事より、学会から子供向けの啓発コンテンツによる情報発信についての提案があった。

- 海洋関係の学会は海洋教育コンテンツがある。DOWASからは海洋深層水について特化した子供向けコンテンツをとりまとめる必要がある。
- 各取水地の取り組みについてアイデアを収集してまとめを行い、将来的には出前授業のような形を行うチームを作り進めたい。
- [深見理事より] 提案は非常に重要であり、他分野でも特に高校生以下向けの啓もう活動が行われており、DOWASでも積極的に行う必要があると考えるので、是非行っていききたいと思う。
- [清水理事より] 深層水を利用する側において、自治体や民間でどのような研究や有効利用を図っているかについて紹介できる記事が作るのに協力できるのではないかと考えるので、是非参加させてほしい。
- [大内理事より] 日本では海洋についてあまり取り上げられていない。深層水についても教科書等に載せるべきであるとする。深層水について若い人に理解してもらうことが重要である。
- [尾高理事より] 収集した情報を Web に掲載するのがよいと考える。
- [井上理事より] 若い人たちに深層水についての利点等を理解してもらうのは重要である。今年度予算がついた3カ所の取水地はいずれも既存の増設と拡張である。また、離島への深層水の関心度についてのアンケートでは関心度が高いことが分かるが、それ以上の取水管を設置などの進展がない。DOWASとしても活動が重要である。
- [山田理事より] 利用促進委員会において利用者のための懇談会を行っているが、小中高生向けの深層水の利用展望についての企画の提案があった。
- [深見理事より] 教育に関する新しい委員会の立ち上げの提案があった。
- [大塚理事より] 委員会の立ち上げとチーム作りについて、理事会で議論する。メンバーについては理事会に限らず、一般会員にも参加していただく形で予定している。

以上